



総会での西堀会長(右)と折井副会長

日本山岳会昭和五十三年通常
総会は五月十二日午後六時から、
東京都千代田区九段北四丁目二番
二十五号の私学会館七階ホールで
開催され、昭和五十三年事業計
画案や予算案などが承認されると

新監事に片岡博氏

事業計画、予算案など承認

昭和五十三年度日本山岳会総会開催



昭和53年(1978年)

6月号(No. 396)

社団法人 日本山岳会

The Japanese
Alpine Club

定価一部 150円

目次

昭和53年度日本山岳会総会 事業計画、予算案など承認 新監事に片岡博氏	(1)
マッターホルン北壁 一ある夫婦の記録— (鳴 満則)	(2)
図書紹介	(3)
屏風岩正面岩壁の登攀について(下) (石岡繁雄)	(4)
図書受入報告	(5)
ルーム基金応募者ご芳名(11)	(6)
東西南北	(6)
山 道(庄司駒男)	(6)
三水会現地集會報告	(7)
日本山岳会昭和52年度収支決算他	(7)
会務報告・ルーム日誌・会員動向	(11)
カット/谷アユ子・梅谷隆三	

▶日本山岳会事務取扱時間

月、火、木、土曜 10時～20時
水、金曜 13時～20時

日曜・祭日は休み

▶図書室開設時間

日曜・祭日・月曜を除く毎日
13時～20時

ともに新監事として片岡博氏が選
任された。
(在籍会員数三三〇一、出席一四
二八〇内委任一三〇九)。
*
総会は宮下(秀)常務理事の司
会により、西堀会長から昨年の山
岳会活動、とくにルーム購入に当
つての会員各位のご支援、ご協力
を感謝する旨の挨拶があり、その
あと、会員の移動の説明が行われ
た。名誉会員一名、永年会員三
〇名、終身会員六〇名、通常会員
三二九〇名で(三月三十一日現
在)、五十二年度の新入会員一四
一名、復活会員六名、退会一八名、
物語者一六名、除籍者は九七名と
なっている。
ついで物語者、近藤芳春、中原
万次郎、加納一郎、斎藤直一、保
泉利喜之助、川崎吉蔵、岡本俊
彦、伊藤弥十郎、三好勝彦、安川
茂雄、小山千万樹、山口節郎、中
野征紀、深田志げこの一四氏の冥

福を祈って黙祷が捧げられた。
引き続き定款により西堀会長
を議長に選出して議案の審議に入
った。

まず、宮下(秀)理事から第一
号議案の中の昭和五十二年の事
業報告が行われた。それによると
五十二年度は集會をはじめ各種の
行事が数多く行われたが、特に国
際的な活動として、UIAA総会
(メキシコ)へ吉沢一郎氏が出席、
また、日本体育友好代表団の一員
として西堀会長が中国を訪問する
などということがあった。

また、昨年度収支決算並びに財
産目録については山本(健)担当
理事より、「基本的には予算通り
の決算が行われた。しかし昨年は
ルーム基金、覆刻山岳名著、山岳
二年分同時発行関係などの三つの

特殊事情から予算より決算面が約
九〇〇〇万円ほどふくらんでいる
」という主旨の説明があり、い
ずれも拍手をもって承認された。
(飯野監事、監査報告)
第二号議案は昭和五十三年事業
計画(案)および収支予算(案)
であるが、これも第一号議案と同
じく宮下、山本両担当理事によっ
て行われた。

まず、昭和五十三年の事業計
画(案)の主なものとは次のとおり
である。

集會は報告会、講習会、シンポ
ジウムなどほぼ例年通り二十回程
度予定されているが、そのほか本
年度のウェストン祭は六月四日上
高地で、年次晩餐会は十二月二日
(場所未定)とそれぞれ決定した。
また、本年度はシエラクラブ会員
の来日に伴う登山交流や、八月に
はドイツ山岳連盟、中国登山界と
の交流、日ネ協会への協力などが
行われるほか、出版関係では「新
選・覆刻日本の山岳名著」「登山
(入門書)」「ヒマラヤ研究」などの
企画・編集が予定されている。
他方、予算関係については、物
価の値上り程度、すなわち基本的
には前年並みが計上され、以上、
両案とも拍手をもって承認され
た。

山をきれいに「三」は持ち帰る

今年度の役員交替については監事二名の選任が行われた。村山雅美氏は再任、飯野亨氏は退任、代って片岡博氏が新任、それぞれ承認され、折井副会長によって新任の片岡氏の紹介がなされた。

第四号議案は九七名の除籍者についての承認。第五号議案は本総会の議事録署名人の件で、これは事務局の提示通り、山崎安治、浜野正男の両氏が承認された。

なお、本総会においては、除籍者の取扱いは、とくに二〇〇〇番代三十年以上の会員の除籍についてはもっと慎重に、という提案、山岳氣象放送の再開について関係者から報告などもあった。

以上のごとく総会は無事終了したが、その後、同ホールにおいて懇親会が行われた。懇親会は今西前会長の乾杯により始まり、新ルームの看板などの披露が行われ、午後八時三十分、盛会裡に解散した。

昭和52年度事業報告、同年度収支決算書その他は7ページ以降に収録。

*昭和53年度通常総会出席者

(順不同・敬称略)

金山淳二、名児耶達男、折井健一、山本健一郎、宮下秀樹、高遠 宏、小林猛臣、尾上 昇、藤沢乙三、外山義夫、谷口現吉、川又恒一、勝田房治、濱田一馬、佐藤テル、山本朋三郎、片岡 博、中村純二、河村憲二、上飯屋正和、今西錦司、

渡辺正臣、久保一陽、宇津力雄、横田春雄、矢田城太郎、飯田睦治郎、鈴木郭之、濱野吉生、太田 敬、田村俊介、宮下喜一、武田満子、国見利夫、伏見紀子、坂坂隆司、島田 巽、吉武正子、近藤信行、進藤波男、織内信彦、関口周也、松本熊次郎、岩瀬 浩、神原忠夫、渡辺公平、望月達夫、筈見愛子、山崎安治、春田俊郎、西堀栄三郎、山川 力、小原晴子、吉沢一郎、今西寿雄、堀田弥一、浜野正男、松井辰彌、佐藤 裕、小倉 厚、蒲生明登、宇野 佐、中河与一、

マッターホルン北壁(一九七八年三月)

ある夫婦の記録

鳴 満 則

飯野 亨、児玉 茂、中川 武、富田美知子、石田稔郎、小林政志、網蔵志朗、大野俊夫、菅野弘章、千葉孝義、斎藤可津ら、星野 重、川喜田二郎、中西 章、北島光子、新井正吉、大塚博美、入沢郁夫、錦織保清、小林重一、千葉重美、北 博正、沼倉憲二郎、成瀬岩雄、秋山宏明、大木淑子、川上和子、佐藤敏彦、中島信、西村一夫、黒石 恒、岸 榮、橋本 清、川崎達夫、宇田川芳伸、佐々保雄、牧野内昭武、森川洋佑

連日の吹雪がおさまリ、三月も初旬になってやっと待ちに待った好天が訪れたようであった。私達はこの時のために実に一ヵ月以上も山麓のツェルマットで天候待ちを強いられたのだった。その間三度ほど北壁への取付となるヘルンリヒュッテへ上ったのであるが、いづれも天気が悪かったり、雪の状態がよくなかったりで敗退をよぎなくされたのである。

三月六日(晴)

朝九時のケープルでシュヴァアルツ・ゼーにむかう。周りはスキーヤーばかりで皆珍しそうに私達をジロジロと眺める。スキーコースを登って行き、途中からヘルンリ根へ取付くと、ラッセルは腰まであり、急な登りのためにもあっていっこうにはかどらない。それでもどうやら尾根まで這い上るとラッセルは大部楽になった。今はもう通いなれた尾根道をヒュッテまで登る。ヒュッテには数日前から待機していたポーランド女性パーティの四人がいた。リーダーのワシダ・リトキエビツツはものすごく山歴の持主であるが、やはり冬の北壁の登攀に賭けているのだ。小屋にデポするものなどのバックキングを済ませ早目にシュラフに入る。

三月七日(晴)

二時半起床。温度は小屋の中でマイナス一度だ。朝食を簡単にとり、四時に小屋を出て、北壁への入口でザイルを結ぶ。スノーシャワールのひっきりなしに落ちてくる「氷河の段」を登りきった頃、ようやく空が明るくなり始める。

北壁の基部でポーランドパーティに追いつく。彼女達の後から登り出したが途中で追い抜き、コンティニウスで登る。「登りの氷壁」は氷壁どころか膝までのラッセルであり、下が硬い氷のためにトラバースするといまにも雪崩れそう。だ。一歩一歩しっかりと蹴こみ、踏み固めながら登っていくうちに次第に氷壁になってきた。スタカットに切り替え、一〇〇メートルほどのトラバースをおこなう。打ち込み式のアイスハーケンはよく効いて気持がよい。途中の岩稜を越え、ふたたび八〇メートルの氷壁のトラバースをし、岩場を登ってやっとクロアールの入口に着いた。

一七時。まだ行動出来るがこの先にはよいビヴァーク地がないと思わねるのでここでビヴァークと決める。

雪壁を切り崩してどうやら二人が座れる場所を作った頃、ポーランド・パーティが上ってきたので狭い場所に六人がビヴァークする破目になった。

三月八日(晴後曇)

風は強いが天気はよい。八時より登攀を開始する。岩と氷のクロアールは傾斜もきつく、ベルグラをたたくおとしたりするので時間をくう。四ピッチほど登ったところで、今朝取付いた山学同志会パーティが追いついてきた。三人パーティであるが彼等は全く速い。私達を追い越してクロアールの出口へと登っていった。ポーランド・パーティは私たちより一〇〇メートル下にいるが、バックアップしているヘリコプターがすぐそばまでやってくる。そのたびに彼女達は手を振っている。昨日も三回やってきた。今日もこれで三回目、これではまるでヘリ公害である。

天気は崩れはじめ雪が降り出した。クロアールの出口では上部からのスノーシャワーが激しく、そのいきおいで壁からたき落されそう。だ。妻は風圧でフードがはがされて、首すじに雪が入り、まっかになり、襟元は凍りついてバリバリになった。

クロアールを抜け出したのが一六時。そこにはよいビヴァークサイトがあったが、まだ時間が早いので明日の天気が心配なので今日中に頂上岩壁へ抜け出るトラバースを終えておきたいと思い、行動を続ける。

スラブをおおっているいやらしい雪と氷の斜面をトラバースする

が、思ったよりも悪く、ヘッドランプを頼りに切れおちた側壁にたどりついた時にはもうすでに夜の九時半であった。一人が何とか立てそうなスタンスが今夜の私達のビヴァーク地となった。どうやらツェルトはかぶったものの立ったままである。眠る事も出来ず、物を落さぬように細心の注意を払いながらどうやら紅茶を沸かす。チューブ入りミルク、チョコレート、干果実など食べながら、とりとめのない話をして長い夜に耐える。

ポーランド・パーティはクローアールを抜け出た地点でビヴァークしている。

夜半より風は激しく吹き荒れてゴウゴウとすさまじい音がする。闇の中にツェルトの灯がキラキラと輝いているがここからは何と遠い場所にあるのだろう。ほとんど一睡も出来ぬまま、つらく苦しい夜が明けた。

三月九日(晴)

八時登攀を開始。岩場を九〇メートル登り、やっと頂上岩壁へと抜け出た。テラスで大休止の後、頂上岩壁を登り出す。トラバースを開始しているポーランド・パーティは二〇〇メートルほど下に小さく見える。

いった。一七時、頂上に出る。風が強く写真を数枚とただけである。妻は記念にとマフラーを十字架に結んでいる。ザイルは空中に舞い、いまにも身体が引き込まれそう。スイス側の頂上を過ぎてビヴァークすることにする。氷の斜面にアイスハーケンを打ち、強風の中をやつとの思いでツェルトをかぶるがいまにも破けそう。気が済まない。夜になっても風はいつこうに衰えなかった。

三月十日(曇)

強風の中を八時より下降を開始する。固定された太いザイルを使いつつ肩まで降りた頃には風は弱まってきたが雪が降り出した。一回以上のアップザイレでソルベイの避難小屋に入る。熱い飲物を何杯も飲み、一段落して毛布にくるまって寝た。

「ドン、ドン」とドアをたたく音と人の声にハッと目をさます。てっきりポーランド・パーティだと思つたのに、それは三人の山岳救助隊員であった。救助隊はポーランド・パーティの救助のためにヘリコプターでの頂上からの隊と、下から登る隊に別れて行動し、彼らはヘルンリ・ヒュッテから吹雪の中を登ってきたのだ。救助隊員からポーランド・パーティのうちの一人が重い凍傷になり、動けなくなつてしまい、頂上より八〇メートルほど下から先ほど全員ヘリコプターで救助されたばかり

だと言ふことを聞いて私達は驚いた。

三月十一日(晴)

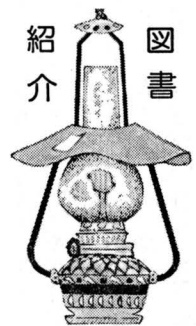
下降準備している私達の前にヘリコプターがきて救助隊員達を小屋のすぐ前から乗せて去って行った。彼等は一〇分後にはツェルトでコーヒードも飲んでいことだ。その頃私達は小屋からアップザイレし、四〇メートル下の岩場にたどりついているだけにすぎないのだ。

果てしなく長い下降が続く、ヘルンリ・ヒュッテに着いたのは七時間後の一六時であった。

三月十二日(晴)

小屋にデポしてあつた装備と食糧を加えるとザックは肩にくいこんだが、私達の足どりは軽かった。ツェルトマットで私達が泊つていた「ホテルバンホフ」にはスイス国旗と共に日章旗がかかげられており私達を祝福してくれていた。

*ワンダ・リトキエビッツはポーランド女性登山界の開拓者であり、ノルウェーのトロリッケン東稜の女性初登、アイガー北壁メスナールト第二登(女性だけの初登)などをおこない、ガッシャブルム山峰の初登の隊長もつとめている。ノジャック、ピーク・レーニン峰、コルジエネフスカヤ峰に登頂。ポーランド・スポーツ相から三度もメダルを受賞している。



図書紹介

農大報告第三号

東京農大山岳部

東京農大の部報第三号が発行された。第二号の出されたのが昭和十二年だから実に四十年ぶりの発行といふことになる。その四十年にわたる農大山岳部の動きが、ここに克明にまとめられたことは、まことに有意義なことであり、登山界にとつてもきわめて喜ばしい。

というのは、戦前から戦後にかけての農大山岳部の活動については、記録的な面でも是非知りたいものが断片的に伝えられているだけで、何とか正式な記録に接したいと思つていた矢先のことで、登山の記録についてことに注意を払っている小生にとってはなおさらのことであつたからである。

冬山合宿報告、海外遠征、調査報告、随想・紀行、追悼の五章に分け、四十年の部の活動のあとがよくまとめられてあり、編集者の

苦心のあとがうかがわれる。冬山合宿報告では、北鎌尾根末端より槍ヶ岳(一九五八・五九)、北鎌尾根より極地法による奥穂高(一九六〇・六一)、燕岳より槍ヶ岳(一九五二・五三)、燕岳から奥穂高(一九五六・五七)など充実したものや並んで一九三九年十二月の厳冬期ジャンダルム飛騨尾根の記録も収められていて、小生はなつかしく拝読した。その当時この記録は「山小屋」という雑誌に出ていたはずである。剣岳では農大の先べんをつけた北仙人尾根から剣岳への極地法登山の厳冬期における一九五五年・五六年の記録が公表され、また一九七二年・七三年の赤谷尾根から剣岳の記録も厳冬期において最初のものと思う。

こうした地道な精進が、海外の山へ向う素地となつていことがよくうかがわれる。海外遠征では一九六三年トウインズ、一九七一年シックル・ムーニンなど八編の報告があり、トウインズ、シックル・ムーニンのような珍しい山へ向つた意欲を大いに買う。残念ながら成功に至らなかったが、いずれこれらの山々からの朗報に接したいものである。調査報告では宮森常雄氏の「バルトロ谷の解明」が巻末に付された「バルトロ氷河周辺図」とともに本報告書に厚みを加えている。

OB織内信彦氏がなげかれている通り、誤植の多すぎることはま

ことに残念で、正誤表はそえられているが、それでも足りないほどだそう。それから表題もやはり第二号にならない、ただ報告第三号ではなく、東京農業大学山岳部報告としてほしかった。

昭和五十二年十月、東京農大山岳部発行、三二九ページ、非売品、希望者は東京都世田谷区桜ヶ丘一ノ一同部へ申し込めばよい。(山崎安治)

中央アジアの高峯

一パミール速攻、日本山岳会隊の記録一

原真・田村俊介 編

一九七六年の夏、ソ連邦パミールで開催された国際パミール・キャンプに日本から十八名よりなる日本山岳会隊(隊長 原真)が参加した。

従来、七〇〇メートル以上の高峯では極地法で登頂を目ざすのが常識とされていた。しかし最近の登山技術や装備の進歩により、七〇〇メートル以上の高峯でも一部の登山家によって速攻登山が試みられてきている。特にソ連の登山家の間では七〇〇メートルの速攻は常識にすらなっている。そこで、日本隊も「実験登山」として、パミールの七〇〇メートル峰二峰に速攻をかけた。

結果として、同隊の十名がコムニズム峰(七四九五メートル)に、四名がコルジェネフスカヤ峰(七一〇五メートル)に登頂、計画はみごと成功した。しかしその成功の裏で、異常な眼底出血が隊員の問題を今後の課題として残すことになった。

本書はパミールの現地事情も含め、この山塊に興味を抱く登山者の貴重な資料集であり、また速攻登山の生々しい苦闘の記録である。

高所ではじめて記録された七〇



〇〇メートル峰登山での眼底出血の生々しいテスト結果は、登山者に高所登山の危険をまざまざと教えてくれる。また「コ峰のヴァリエーション・ルート」ではソ連登山家達が行っている七〇〇メートル峰での先鋭的な岩壁登攀や縦走を紹介しており興味深い。

ベースボール・マガジン社刊、A5判、二三二ページ、カラー写真三二ページ、モノクローム写真二四ページ、地図一四葉、表九葉 (池田常道)

屏風岩正面岩壁の

登攀について (下)

岩稜会 石岡 繁雄

(イ) 北壁でのダイレクトに欠ける登攀のみを評価したもの

山と溪谷社が昭和四十六年七月一日に発行した『世界山岳百科事典』の日本登山年表および学習研究社が昭和五十一年七月二十五日に発行した『上高地 槍穂高』山崎安治氏執筆の登山年表には、「昭和十九年十月伊藤洋平らは前穂高屏風岩正面を登攀。昭和二十三年三月伊藤洋平らは前穂高屏風岩正面岩壁を登攀」と記し中央カンテの登攀にはまったくふれていない。また日本山岳会発行の『山日記』の登山年表は、発行年度によってかなりの相違があるが、前記に類似した記載となっている。

(ロ) 昭和二十二年七月の中央カンテの登攀のみを評価したもの

朝日新聞、昭和三十年七月発行『十年の逆算、戦後重要記事切抜集』。前記山と溪谷社発行『世界山岳百科事典』における安川茂雄氏の見解。好日山荘発行のパンフレット。毎日新聞社、昭和五十一年六月発行、大島幸夫氏著『人間記録、戦後民衆史』に収録された「最後の日本アルプス初登攀」。前記学習研究社発行『上高地 槍穂高』小森康行氏執筆「穂高の岩場」。四、前項(イ)の評価が生れた原因とそれに関連する疑問

伊藤洋平と大津秀夫は、前述のごとく二十三年三月、慶応校P3へのルートを登攀し、その詳細を日本山岳会、昭和二十四年十二月十日発行『山岳』第四十四年第二号に発表した。その

中で、昭和十九年十月の登攀を屏風岩正面岩壁初登攀、二十一年八月の登攀を同じく第二登、二十二年七月の中央カンテの登攀を同じく第三登と記し、二十三年三月慶応校P3に登った登攀を、屏風岩正面岩壁積雪期初登攀と記した。「山岳」は日本でもっとも権威のある文献であるため、「山と溪谷」社とか「学習研究社」発行の「上高地 槍穂高」の執筆山崎安治氏は、これに基いて前記登山年表を製作されたものと思われる。

しかしながら前記「山岳」の記事の中には次の疑問点がある。すなわち同記事の中に「積雪期の屏風岩正面岩壁を登攀するにあたって」まず第一の問題はルートの選定であった。それは出来る限りダイレクトであり、しかも最も確実性のあるもの——と言う一見相反する二つの条件が考慮された。中央カンテのルートは、夏期において地下足袋と投縄といった相当に変則的な無理な登行を強行して、かつあれだけの切迫した小事故を含む登攀となったもので、アイゼンをもってする積雪期の登高では問題とならなかった。また初登のさいのルート(十九年十月)は、前者の条件からやや残念であり、結局昭和二十一年八月(伊藤・石岡外二名)が拓いたルート(中央壁より北壁へ)が採用されることになった」と記されている。この記事から明らかに、またこれまで述べたことから明らかに、十九年十月のルートは、懸案の岩壁ではない北壁の、しかもダイレクトに欠けるルートであり、従ってそのルートの登攀は北壁の初登攀ともいえない。また二十一年八月のルートは、同記事からは北壁のダイレクトなルートであるかのような印象をうけるが、1図と3図(前号参照)から明らかなごとく北壁への取付点も登攀終了点も十九年十月のルートと全く

・図書受入報告

(昭和52年7月～53年2月)

図書委員会

- (8) 渡辺公平・田村宣紀編「友情はマナスルを越えて」日本山岳協会日本・イラン合同マナスル遠征実行委員会 昭52
- (9) 白旗史朗著「富士山」名峰シリーズ No.9 山と溪谷社 昭53
- (10) 山と溪谷社編「岩場ゲレンデガイド・関東編」山と溪谷社 昭52
- (11) 高橋小一郎編「ヒマヤトレッキング報告書」日本山岳会越後支部 昭52
- (12) エーデルワイス・クラブ編「ランタン紀行」茗溪堂 昭52
- (13) 広島三朗著「K2登頂 幸運と友情の山」実業之日本社 昭53
- (14) 日本山岳会学生部編「日本山岳会学生部年報 No.5 1970」日本山岳会学生部 昭47

初見一雄氏寄贈

- (1) 別所二郎蔵著「わが北千島記」講談社 昭52

宮下啓三氏寄贈

- (1) 朝日新聞東京本社企画部編「スイス・アルプス名画展」朝日新聞社 昭52

木下とも氏寄贈

- (1) 伊藤秀五郎著「草原随想」新樹社 昭52

山本良三氏寄贈

- (1) 静岡高校紫岳会・静岡大学山岳会編「紫岳」朝日出版社 昭52

山口一孝氏寄贈

- (1) 成城学園編「成城学園60年」筑摩書房・成城学園 昭52

今井順一氏寄贈

- (1) 東北大学カラコルム遠征実行委員会編「シンギカンリ・1976」東北大学カラコルム遠征実行委員会 昭52

藤島玄氏寄贈

- (1) 五十嵐力著「山のはなし」五十嵐力 昭52
- (2) 内山数雄著「最新北欧のスキー術」美津濃運動用品株式会社 昭2

後藤幹次氏寄贈

- (1) 山形山岳会編「青と緑と白と」山形山岳会 昭52

洋書(昭和50年7月～52年11月)

() 記載以外は著者、編者又は出版社寄贈

1. Norman Kingsley, illustrated by Anna-Lisa Kingsley, "Icecraft", Glendale, Calif., 1975
2. Toni Hagen, "Nepal, Königeichan am Himalaya", Kümmerly & Frey Geographischer Verlag, Bern, 1971
3. Österreichischen und Deutschen Alpenverein, "Alpenvereins-Jahrbuch 1974", Innsbruck & München.
4. "A Photographic Record of the Mount Jolmo Lumgma Science Expedition 1966-68", Science Press, Peking, 1974
5. 中国科学院西藏科学考察隊, "珠穆朗瑪峰地区科学考察報告 1966-68", 科学出版社, 北京, 1974
6. Elias Landolt, "Geschützte Pflanzen in der Schweiz", Sats AG, Zürich, 1970
7. Vilem Heckel, "Našehory", Orbis, Czechoslovakia, 1972
8. Jürg Weiss, "Klippen und Klüfte", Orell Füssli Verlag, Zürich, 1942 (昭50, 図書交換会購入)

恒例のビール・パーティを開きます。
日時 8月19日(土) 午後4時から7時まで
場所 日本山岳会ルーム
会費 一〇〇〇円
主催 婦人懇談会
みなさまお誘い合せのうえ、ご出席ください。

ビール・パーティの

お知らせ



売場ご案内

最新入荷の本

- 中 空から見たヒマラヤ(NHK取材班) 900円
- 中 K2より愛をこめて(塚本圭一) 980円
- 中 奥秩父回帰(原全教) 1,200円
- 中 木の実・草の実(室井緯・巽英明) 430円

立山・白山方面の本とガイド

- 中 立山路の花しるべ(河野昭一・橋本竹二郎) 980円
- 中 立山路の歴史あるき(佐伯立光) 980円
- 中 立山とガイドたち(北日本新聞社) 880円
- 中 立山と白山(広瀬誠) 580円
- 中 白馬・剣・黒部(山溪カラーグラフィックガイド) 1,500円
- 中 立山・黒部・白馬(学研グラフィックガイド) 1,600円
- 中 国立公園白山周遊300キロ(北国文化事業団) 850円

茗溪堂

〈山の本の売場〉 お茶の水店三階
営業時間 平日・午前10時30分より午後8時
日曜祝日・午後0時30分より午後6時30分

同じであり、従って同ルートの登攀は、北壁の初登攀とはいえない。従って同ルートを登攀した二十三年三月の登攀は、懸案の岩壁の積雪期初登攀ではなく、また北壁の積雪期初登攀でもない。要するに中央カントの登攀は、懸案の岩壁の初登攀であるのに「山岳」ではそれは第三登となっており、他方、懸案の岩壁の裏側にある岩壁の、しかもダイレクトに欠けるルートの登攀が初登攀となっている。不可解というべきではなからうか。

五、この会報にこの記事が掲載されるにいたったいきさつ

屏風岩中央カントを初登攀した岩稜会は、昭和五十二年七月、日本山岳会に対し、前記の諸点を記し、日本山岳会が当方の主張に賛成されるときには、また次回山日記に年表を発表されるときには、そのように訂正したものを発表したい。

ていただきたい旨の書簡を送った。

こういうことを要望することは自己宣伝であり心苦しいことであるが、それかといって登山史の誤りは正されなくてはならない。いつの日にか正されることがあるにちがいないと信じて待っていたが、三十年経た現在、混乱はむしろ深まる一方である。ここにおいて今回思い切って申し出た次第である。

これに対し山崎安治氏から「事情を知って非常に驚いた。貴会の主張に全面的に賛成である。しかし今後山日記に年表を掲載する予定がないので、日本山岳会の会報にそういう記事を発表していただくのはどうだろうか」という趣旨のお返事をいただき、かくして一連の屏風岩の登攀から三十年も経過した今日になって、こういう記事を会報に掲載させていただくことになった。山崎氏のご配慮に深謝する次第である。

ルーム基金応募者

ご芳名(11)

(昭和53年5月15日現在)
敬称略・順不同

【東京の部】 一口一万円 数字は口数(2) 福田宏年(1) 伊丹紹泰、柏瀬祐之、山崎郁郎、池元善秋
小計 五名 金六〇、〇〇〇円
累計 五九九名 一一五一・九口
金一一、五一九、〇〇〇円

【地方の部】 一口五千円 数字は口

数(1) 坂井久光、讃岐惣二郎、福嶋一馬、橋村一豊、斎藤弘(04) 石川勝恵
小計 六名 金二七、〇〇〇円
累計 五一七名 一一六一・三口
金五、八〇六、五〇〇円

大累計 一七、三三五、五〇〇円
申込人員 東京 五九九名
地方 五一七名

【法人協力先の募金】

昭和53年5月15日現在で金一一、九七〇、〇〇〇円入金済みです。

【募金委員会の解散】

昨春以降、理事会の決定に基づき募金

東海支部総会に

出席して

去る四月二十二日(土)午後六時から尾上機械会議室で開催された昭和五十三年支部総会に出席し、二十余名の会員諸氏と懇談が出来て幸いであった。

尾上支部長から冒頭の挨拶に、新年度の運動方針として特に①会員の増強開発、②会員相互の交遊の場としての楽しいクラブ・ライフ、③自然保護運動の推進。支部地域内には大きな山はないが、きめ細い運動を、県岳連では出来ない面で各支部とも協調して続けてゆきたいとの話があった。特に御在所岳北



谷の水質調査の結果、昨年は登山者に対する良質な飲料水の確保という実施の面において評価さるべき業績も残されたと聞いている。

尾上支部長は議長委嘱を受けて手際よく議事を進められて、和やかなうちに質疑応答を充分につくして議事を終了した。来賓として、愛知県岳連、国島

委員会を組織し、委員のほかに顧問、参与の委嘱をお願いし、強力に募金活動を進めてまいりました。幸い会員各位の絶大な協力と、顧問、参与、委員諸氏の熱心な努力が実を結び「山」誌上で毎号ご報告してまいりましたような好結果をあげることができました。ここに改めて厚くお礼申し上げます。以上所期の目的を達成しましたので、残務は今後担当理事において行うこととし、本委員会の組織は去る四月二十一日をもって解散致しました。略儀ながら本誌上を以て関係各位にご報告し、厚くお礼を申上げる次第です。

募金委員長

理事長から挨拶のなかに県岳連と支部との協調についてふれてしたが、非常に友好的な関係にあるように感じられた。総会終了後は、会場を浩養園に移して懇親会となった。

役員選任と担当

(支部長) 尾上 昇

(副支部長) 中世古隆司

(常務委員) 沖允人(支部報)、岡田良平(岳連)、小川 務(自然保護)、多田光孝(会員)、湯浅道男(会員)、丸山昭一(総務)、木村孝保(会計)、梅田浩生(集会)

(会計監事) 村井喜一

以上の諸氏によって支部が運営されることになり、新年度を迎える。

●自然保護情報

山 道

庄 司 駒 男

遅い初雪を頂く奥羽の山なみを背にした近頃の仙台近郊も大規模な都市化はものすごい。

それでも市中に近いキャンパスに初夏の郭公、ホトトギスの声を聞き、小春日和には、クジャクチヨウが姿を見せている。

旧い町並を抜けて市街を取りまぐ西の丘陵に登る。しばらく前までは、新緑から紅葉までの美しい松やコナラ、クリの雑木林は削り取られ、春のリュウキンカ、ミズバショウに夏のサギ草等の野草をみた湿地地埋まり、段々に区画された住宅団地にかわり、杜の都も緑が少なくなってきた。

わずかに残る風致の維持や未開発の柴山に立てば、南から大東岳、後白髭山、泉ヶ岳、舟形山と連なり、七ツ森の小さい頂がいつもの姿で目の前に広がる。

都市化の著しい東北自動車道をすぎても、大きな面積に区画整理された水田地帯の道も今はアスファルト舗装にかわり、車の騒音を逃れて懐かしい山道に入る。

石ころの道に、澄んだ小川、水田や畑、今でも燃料として薪や薪炭の生産される雑木林と杉や松の木立ちは、野草や動物も豊かで四季の愉しみが味わえる。

古い山道も消えて大きく開拓された果樹園の中に特別に保護されたミズバショウは周囲が萱野や雑木林だったころよりも花が小さく見える。広い駐車場の周辺はロッジやリフト、青年の家、少年自然の家と施設が整い、一年中登山やハイキング、スキーとにぎわう。

泉ヶ岳の登山コースは、地元山岳会や、各種団体の清掃奉仕とゴミ持ち帰り運動が早くから実施されて美しいが、平地の雑草が山頂まではびこり、豊富な植物も年々その数をへらしている。

泉ヶ岳のにぎやかな山道をはなれて、舟形山頂へ続く道を歩けば山稜のブナの原生林は美しいが、山腹一帯を覆うようにあったブナ等の落葉広葉樹林は皆伐され、荒々しい山肌の景観をみせている。

伐採された跡地は松、杉、カラマツの植林が目立ち、坊主になった一部斜面に残された林は、虎刈りにされたしま模様は痛々しく、林道も山腹を這い登り、奥の山陰へ伸びている。林道より近いハイ松地帯の稜線に登れば、深く掘った穴が数多くみられ、いずれも商品価値の高い樹姿を備えた植物が消えている。

ここから山頂までふもとの荒廃を忘れさせるような静けさと、厳しい自然に保護された山道は何時来ても遠い。

えたが御健闘を祈ります。

(折井健一)

上高地山研の開所

例年になく雪の多い上高地ではあったが、会員からの要望にも応えて、昨年より半月早く、予告通りに4月29日(土)に開所の運びになりました。

当日は小雨模様で降ったり止んだりの中で、宇田川、前神委員等の男子組は入口道路の除雪作業やその他の外周りの整備に、また小原晴子委員等の婦人組は、寝具のカバー、襟かけなど手際よく準備が完了し、一番心配だった水も「コトコト」音をたてて蛇口から流れ出したのでホッとしました。

半年ぶりに明るい灯のついた夜は、奥原支部長、環境庁の小林、杉田両氏を混えて、心ばかりの祝宴となりました。

今年も津村夫妻が元気で皆さんをお待ちしています。

なお、当日の助人で参加してくれた関係会員からコーヒーマットの寄贈を受けました。併せてお礼申し上げます。

(山研運営委員会 折井)

日本山岳画協会展

開催

日本山岳画協会では、山岳画

(洋画)展を左記の要領で開催する。この展覧会には、同協会会員二人の作品(15号以下約40点)が出品される。

日時 7月22日(土)～31日(月)までの10日間、午前10時半～午後6時まで。

場所 ギャラリー・ミキモト
東京都中央区銀座四一五五
電話〇三三三三三三三三三三

会員通信

会員番号 菊地正蔵
一〇七八

(前略) いつも御好意を頂いて感謝致して居ります。扱て同封の朝日紙のコピーを御覧下さい。これが私ども青春時代から連綿として絶えることのないグループ(たかね同人社)が五十年を経た姿です。現存者の中、中川喜久雄は小生より一足先きに日本山岳会の会員に復活した筈。その他おいらく山岳会の創立に参画し現在自宅をその事務所に提供している鈴木勝太郎など、こと山に關しては少しも年をとらぬと豪語する猛者ぞろい

です。
この生き残りがスキーを履いて五十年、その処女滑走の地、野沢温泉へ去る三月押しかけた次第が、たまたま朝日の記者の知るところとなつて、斯くは記事となつたのです。小生は病

後のことでもあり残念乍ら遠慮しましたが、雀百まで踊り忘れずとばかり、孫(否、曾孫も居る)を引き連れて滑るもありで誠に盛況だったとか。

現在一番若い増田栄一(六十五)が会務一切を引き受けて呉れ、春秋二回小旅行か料亭に集まっでは飲談して居ります。もうお互いに親戚づきあいで、仲間の内に何か起ると、それとばかり集まって、親身も及ばぬ世話を焼いて呉れ、小生などはいつも勞わって貰うばかりで、そのこまやかな友情には只々涙あるのみです。以上新聞の切抜きを御覧に入れて、自叙伝代りに一寸御披露申し上げた次第です。

昭和五十三年四月二十三日

(同封朝日新聞昭和五十三年二月八日の切抜きは紙面の都合で割愛するが、「脱グレンデ・スキー」(13)若返り法という連載記事、会員中川喜久雄氏のことにもふれてゐる。なお菊地正蔵氏は戦前既に終身会員であつたが、住所不明のため永らく名簿からも除かれていたところ、昭和五十一年十一月中川喜久雄氏が復活し、つづいて同氏の話がわかつて五十二年七月復活会員となつた。(望月)

三水会現地集會報告

只見 散策

高曇りが青空にかわると、只見川をはさんで対岸に見事な姿をみせている浅草岳の雪がまぶしい。ここ柴倉山の急斜面には、雪解け水の流れがキラキラ光る残雪の合間に、コゴミ、フキノトウが上流まで点々する。ふもとで群生また群生だったカタクリがまだ散見される。一行はしばし俗境を忘れた。

三水会有志は五月の連休も後半のある一日、会員斎藤多美子(旧姓三浦)さんご夫妻が夢を実現させて、守り、育てておられる只見

ユースホステルを訪れた。旧交を温める人、カタクリと山菜を賞でる人、地形を探る人。散策のあとには山菜料理を中心に熊汁、地酒、手作りの果実酒等で飲談していた。夜おそくまで飲談がつづいた。

「キノコがとれる秋には非きて下さい」ご夫妻の心のこもった誘いである。

(参加者) 沼倉寛二郎、坂倉登喜子、斎藤健治、黒石恒、黒石純一、高田真哉、斎藤名美子、斎藤英三、片岡 博、岩堀瑞子、館野昭子、大沢 萬、菅野弘章

日本山岳会 昭和五十二年度事業報告

1 登山の指導と奨励に必要な集會、講習会および展覧会の開催

(1) 集會

- ・四月二十二日 支部長會議(本会)
- ・四月二十三日 第三五四回小集會 親睦山行 (奥多摩・御岳山)
- ・五月十四日 インド登山財団サリン氏との懇談 (本会)
- ・五月二十日 第三五五回小集會 学生部ドゥナギリ報告會 (本会)
- ・六月一日 第三五六回小集會 山菜研究會、講師 片岡 博 (本会)
- ・六月五日 第三一回ウエストン祭 (信濃支部担当・上高地)
- ・六月十一日～十二日 第三五七回小集會 山菜山行 (越後支部協力・越後・浅草岳)
- ・七月十三日 第三五八回小集會 映画と講演會、講師 西堀栄三郎「白瀬南極探検隊の記録」「探検の先蹤者たちⅡ」
- ・九月十日 第三五九回小集會 越後の山を語る會、講師 藤島 玄 (本会)
- ・十月二十二日 第十回山岳圖書交換會 (本会)
- ・十月二十五日 第三六〇回小集會 山岳写真講習會、講師 白嶽史朗 (本会)
- ・十月二十九日 第三六一回小集會 第一回JACノミの市 (東京・金通會館)
- ・十月三十日 第三六二回小集會 山岳写真講習會、現地写真山行 (南アルプス・夜叉神峠)
- ・十一月十三日 第三六三回小集會 現地山行 (秋山川二十六夜山)
- ・十一月十五日 第三六四回小集會 山岳写真講習會、写真批評會、講師 白嶽史朗 (本会)

昭和 52 年度 収支決算書

自 昭和 52 年 4 月 1 日
至 昭和 53 年 3 月 31 日

1) 一般会計 (歳入)

(単位: 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)
経 常 収 入	21,250,000	24,503,068	3,253,068
入 会 金	2,250,000	2,175,000	△ 75,000
会 費	19,000,000	21,288,478	2,288,478
次 年 度 会 費		689,590	689,590
終 身 会 費		350,000	350,000
事 業 収 入	4,531,000	13,357,910	8,826,910
広 告 料	1,225,000	1,751,015	526,015
山 日 記 印 税	456,000	380,000	△ 76,000
そ の 他 印 税	800,000	1,228,219	428,219
刊 行 物 売 上	250,000	909,050	659,050
そ の 他 事 業 収 入	500,000	547,800	47,800
山 研 使 用 料	1,300,000	1,566,927	266,927
出 版 編 集 費		6,974,899	6,974,899
雑 収 入	1,000,000	1,280,919	280,919
利 息	700,000	992,024	292,024
そ の 他 雑 収 入	300,000	288,895	△ 11,105
寄 付 金		515,000	515,000
募 金 収 入		27,173,103	27,173,103
会 員		16,293,103	16,293,103
法 人		10,880,000	10,880,000
借 入 金 収 入		45,000,000	45,000,000
保証金返還収入		7,314,000	7,314,000
退職給与積立金			
退 職 給 与 積 立 金		99,000	99,000
小 計	26,781,000	119,243,000	92,462,000
前年度からの繰越金	8,113,715	8,113,715	
一 般 会 計 合 計	34,894,715	127,356,715	92,462,000

2) 一般会計 (歳出)

(単位: 円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減 (△)
運 営 管 理 費	15,980,000	14,654,515	△1,325,485
手 当	3,630,000	3,629,540	△ 460
退 職 金		99,000	99,000
文 具 費	120,000	126,398	6,398
印 刷 費	1,100,000	906,950	△ 193,050
交 通 費	500,000	697,970	197,970
通 信 費	3,350,000	3,026,930	△ 323,070
家 賃 費	4,900,000	3,768,136	△1,131,864
保 険 料	50,000	72,900	22,900
営 繕 費	250,000	176,910	△ 73,090

諸 税	150,000	127,281	△ 22,719
光 熱 費	700,000	517,627	△ 182,373
電 話 料	250,000	276,620	26,620
会 議 費	50,000	94,025	44,025
交 際 費	150,000	239,130	89,130
備 品 費			
振 替 料	140,000	131,800	△ 8,200
支 部 運 営 費	420,000	397,200	△ 22,800
福 利 厚 生 費	70,000	73,468	3,468
雑 費	150,000	184,130	34,130
事 務 所 管 理 費		108,500	108,500
事 業 費	13,730,000	13,138,470	△ 591,530
出 版 費	8,935,000	9,324,633	389,633
図 書 費	300,000	198,495	△ 101,505
調 査 研 究 費	310,000	18,120	△ 291,880
指 導 費	770,000	636,226	△ 133,774
海 外 関 係 諸 費	410,000	944,388	534,388
山 研 運 営 費	2,005,000	1,379,108	△ 625,892
そ の 他 事 業 費	500,000	637,500	137,500
名 簿 発 行 費	500,000		△ 500,000
予 備 費	2,000,000		△2,000,000
事務所取得関係費		75,850,607	75,850,607
借入金返済支出		1,099,572	1,099,572
引 当 金		851,500	851,500
別 途 積 立 金		13,210,395	13,210,395
小 計	31,710,000	118,805,059	87,095,059
翌年度への繰越	3,184,715	8,551,656	5,366,941
一 般 会 計 合 計	34,894,715	127,356,715	92,462,000

3) 別途会計 (編入内訳)

(単位: 円)

科 目	繰 越	歳 入	歳 出	翌年度繰越
終身会費積立金	2,780,000	350,000		3,130,000
ルーム基金 "	1,457,000	3,636,496		5,093,496
図書購入費 "	40,000			40,000
図書出版研究基金		6,974,899		6,974,899
会 員 遺 贈 基 金		1,000,000		1,000,000
退職給与積立金	850,000	1,249,000	99,000	2,000,000
合 計	5,127,000	13,210,395	99,000	18,238,395

4) 引当金 (内訳)

科 目	繰 越	歳 入	歳 出	翌年度繰越
図 書 製 本 代		151,500		151,500
名 簿 製 作 費		700,000		700,000
合 計		851,500		851,500

- (5) 支部活動
全国にある十九支部では、それぞれ
- (4) 十二月三日 この一本展
(京王プラザホテル)
- (3) 講習会
・五月二十一日(二十三日) 第十九回
登山技術講習会 (穂高岳沢)
・九月十日(十一日) 奥日光現地集會
(奥日光・光徳ロッジ)
・二月十六日(十九日) 第二一回山ス
キー技術講習会 (鹿島槍)
・十二月三日 (一本展)
- (2) 研究会
・九月十六日、十月二十日、十一月十
日、十一月三十日、十二月二十日
雪崩研究会 (本会)
・二月十八日 高所登山研究会 K2
登頂報告会、講師 広島三朗 (本会)
・三月二十五日 第三六八回小集會
新入会員オリエンテーション (本会)
・三月二十九日 第三六九回小集會
マカール西稜映画会 (本会)
・十二月三日 支部長會議 (本会)
・十二月三日 年次晩餐會
(京王プラザホテル)
・十二月十八日 第三六五回小集會
もちつき大会 (本会)
・一月十三日(十五日) 第三六六回小
集會 スキー親睦會
(八方尾根・中山山荘)
・三月三日 第三六七回小集會 スキ
ー親睦會反省會(東京・私学會館)
・三月十一日 新ルーム、山岳図書室
オープンパーティー (本会)
・三月十六日 山岳史懇談會 一九二
〇年代のアルプス、講師 各務良幸 (本会)
・三月二十五日 第三六八回小集會
新入会員オリエンテーション (本会)
・三月二十九日 第三六九回小集會
マカール西稜映画会 (本会)

財 産 目 録

昭和53年3月31日 現在

(資産の部)

1. 基 本 財 産

種 類	預 入 先	金 額
貸付信託	三井信託銀行 本店	2,380,000円
"	日本信託銀行 本店	420,000
"	中央信託銀行 本店	5,000,000
定期預金	中央信託銀行 本店	5,176
合 計		7,805,176

2. 現金および預貯金

種 類	預 入 先	金 額
現金		151,472円
普通預金	三和銀行 本郷支店	131,783
"	" " "	6,974,899
"	協和銀行 神田	475,989
"	東京銀行 本店	326,383
"	第一勧業銀行 新宿西口	1,014,870
"	富士銀行 新宿	802,755
"	三菱銀行 " "	1,081,601
"	" 市ヶ谷	1,606,902
"	住友銀行 新宿西口	1,308,232
"	三井銀行 新宿	1,711,670
"	東海銀行 " "	620,827
"	大和銀行 " "	761,633
"	太陽神戸銀行 " "	10,055
"	日本信託銀行 本店	272,527
"	中央信託銀行 " "	8,681,860
"	三井信託銀行 新宿西口	329,185
"	安田信託銀行 " "	110,121
"	三菱信託銀行 新宿	110,258
"	住友信託銀行 " "	10,069
振替貯金	東京振替貯金課	1,148,463
合 計		27,641,551

3. 建物および土地

A 事務所および図書室

場 所	東京都千代田区四番町5番4
構 造	鉄筋コンクリート造、陸屋根、地下1階付5階建 区分所有建物1階部分 103.32㎡、宅地持分 1124.56㎡×339/10,000 (事務所) 区分所有建物1階部分 55.22㎡、宅地持分 1124.56㎡×176/10,000 (図書室)

B 上高地山岳研究所

場 所	長野県南安曇郡安曇村上高地国有林114い林小班
構 造	鉄筋コンクリート造 (一部木造) 1棟 100.69㎡

4. 図 書

種 類	摘 要	冊 数
和 書	(52年度 受入冊数 101冊)	3,537冊
洋 書	(" " 7冊)	1,339冊

5. 什器備品

新刊書ケース1, 雑誌棚2, スチール書架4, マップロッカー1, コンパック移動書架1式, 両開書庫7, ファイリングキャビネット6, セフネス金庫1, キーバー引違書庫2, 机5, 折りたたみテーブル8, スチール黒板1, 宛名印刷機1, ローヤルタイプライター1, 複写機1, 電気冷蔵庫応接セット1, 耐火金庫1, 除湿器1.

6. 絵 画

・北穂高岳滝谷 (足立源一郎, 油—25) ・槍穂高岳主峰 (足立源一郎, 油—25) ・或朝の槍ヶ岳 (足立源一郎, 油—25) ・槍ヶ岳 (足立源一郎, 油—P8) ・群猿 (石井鶴三, 墨絵) ・鳥 (石井鶴三, 墨絵) ・徳本峠から穂高連峰 (石田吟松, 墨絵) ・富士山麓 (茨木猪之吉, 油—A25) ・伊豆半島 (茨木猪之吉, 油—10) ・針之木峠 (茨木猪之吉, 油—10) ・初冬の両神山 (茨木猪之吉, 油—10) ・モンブラン・メールドグラス (シュラギントワイト, エッチング) ・北岳 (高遠宏, 版画) ・白馬岳 (中村清太郎, 油A—50) ・田代池の白樺 (中村清太郎, 油—変型6) ・後立山連峰 (中村清太郎, 水彩) ・槍ヶ岳初夏 (中村清太郎, 油—10) ・ユングフラウ (山里寿男, 油—10) ・酒沢より北穂高 (山里寿男, 水彩—6) ・カンチェンジュンガ (矢崎千代子, パステル画) ・ブカヒルカノルテ (渡辺九郎, 水彩)

7. 刊行物・服飾品棚卸現在高

摘 要	金 額
刊 行 物 (山岳, 山岳複製版等)	1,273,020円
服飾品, 記念品 (ネクタイ, 灰皿等)	1,310,120
合 計	2,583,140

(負債の部)

1. 長期借入金 (未済残高) 44,516,770円

ア 借入先 中央信託銀行株式会社本店

イ 利 率 年利 8.16%

ウ 担 保 事務所および図書室の建物と土地を担保として差入れる

エ 返済年月 昭和63年1月まで

2. 退職給与積立金 2,000,000円

3. 引 当 金 851,500円

(図書製本代, 名簿製作費)

社団法人日本山岳会 昭和52年度 収支決算書および財産目録を監査し, 正確妥当なことを認めます。

昭和53年4月15日

社団法人 日本山岳会
監事 飯野 亨美
監事 村山 雅美

5 海外登山の企画および海外との交流

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)
・十月十五日～十六日 自然保護東京集会 (裏丹沢, 長者倉山荘)

昭和 53 年度 予算書 (案)

(昭和53年4月1日より昭和54年3月31日まで)

1) 収入の部

勘 定 科 目		予 算 額	前 予 算 年 度 額	増 減 (△)
大 科 目	中 科 目			
經常收入		21,250,000	21,250,000	
	入 会 金	2,250,000	2,250,000	
	会 費	19,000,000	19,000,000	
	次 年 度 会 費			
	終 身 会 費			
事業収入		4,725,000	4,531,000	194,000
	広 告 料	1,345,000	1,225,000	120,000
	山 日 記 印 税	380,000	456,000	△ 76,000
	そ の 他 印 税	300,000	800,000	△ 500,000
	刊 行 物 売 上	500,000	250,000	250,000
	そ の 他 事 業 収 入	500,000	500,000	
	山 研 使 用 料	1,700,000	1,300,000	400,000
雑 収 入		1,300,000	1,000,000	300,000
	利 息	1,000,000	700,000	300,000
	そ の 他 雑 収 入	300,000	300,000	
前期繰越収支差額		8,551,656	8,113,715	437,941
	前期繰越収支差額	8,551,656	8,113,715	437,941
合 計		35,826,656	34,894,715	931,941

2) 支出の部

勘 定 科 目		予 算 額	前 予 算 年 度 額	増 減 (△)
大 科 目	中 科 目			
運営管理費		8,994,000	12,180,000	△ 3,186,000
	手 当	4,000,000	3,630,000	370,000
	文 具 費	120,000	120,000	
	印 刷 費	500,000	500,000	
	交 通 費	600,000	500,000	100,000
	通 信 費	700,000	650,000	50,000

	家保 險 料	0	4,900,000	△	4,900,000
	營 繕 費	90,000	50,000		40,000
	諸 稅 會 費	100,000	250,000	△	150,000
	光 熱 水 費	150,000	150,000		
	電 話 料	200,000	200,000		
	會 議 費	300,000	250,000		50,000
	交 際 費	100,000	50,000		50,000
	備 品 費	200,000	150,000		50,000
	振 替 料	0	0		
	支 部 運 營 費	140,000	140,000		
	福 利 厚 生 費	420,000	420,000		
	雜 費	90,000	70,000		20,000
	事 務 所 管 理 費	300,000	150,000		150,000
	そ の 他 管 理 費	600,000	0		600,000
		384,000	0		384,000
事 業 費		13,515,000	17,530,000	△	4,015,000
	出 版 費	6,215,000	8,935,000	△	2,720,000
	図 書 費	300,000	300,000		
	調 査 研 究 費	410,000	310,000		100,000
	指 導 費	620,000	570,000		50,000
	支 部 関 係 費	300,000	200,000		100,000
	海 外 関 係 諸 費	450,000	410,000		40,000
	山 研 運 營 費	2,020,000	2,005,000		15,000
	そ の 他 事 業 費	100,000	500,000	△	400,000
	印 刷 費	600,000	600,000		
	通 信 費	2,000,000	2,700,000	△	700,000
	光 熱 水 費	500,000	500,000		
	名 簿 発 行 費	0	500,000	△	500,000
借 入 金 出 借 返 済 支		6,600,000	0		6,600,000
	借入金返済支出	6,600,000	0		6,600,000
予 備 費		2,000,000	2,000,000		
	予 備 費	2,000,000	2,000,000		
次 期 繰 越 収 入 差 額		4,717,656	3,184,715		1,532,941
	次期繰越収支差額	4,717,656	3,184,715		1,532,941
合 計		35,826,656	34,894,715		931,941

- ・ガルワール登山隊は十月四日タルツト峰に登頂
- ・八月にドイツ山岳連盟との青年交流登山のため、ドイツへ代表派遣
- 6 機関紙などの刊行
 - ・「山岳」七〇年号、七一・七二年合併号発行
 - ・会報「山」三八二号・三九三号発行
 - ・「山日記」昭和五十三年版編集（発行、茗溪堂）
 - ・「学生部年報」第六号発行（発売、茗溪堂）
 - ・「登山の技術」上、下巻編集（発行、白水社）
 - ・「覆刻・日本の山岳名著」第二期を企画、編集
- 7 目的を同じくする外国山岳会等との情報交換
 - ・三〇カ国六〇の団体と情報を交換した。
 - ・UIAA総会（十月十二日・十五日メキシコ市）に会員・吉沢一郎が出席した。
 - ・日本体育友好代表団の一員として会長・西堀栄三郎が中国を訪問（十月二十七日・十一月八日）中国登山協会関係者と懇談し、合同登山を提案した。
 - ・ヒマラヤンクラブ創立五〇周年記念の会合（二月十七日・十九日）に会長西堀栄三郎が出席した。
- 8 その他
 - ・本会事務所・図書室購入のため募金活動を実施した。
 - ・新ルームを東京都千代田区四番町五番四に購入、一月二十九日に移転した。

昭和五十三年事業計画(案)

登山の指導奨励に必要な集会・研究会・講習会の開催

小集会（報告会、講習会） シンポジ

ウム）本会、その他二〇回

ウェストン祭 上高地 六月四日

山岳図書を語る夕 本会 九月

山岳史懇談会 本会 三月

山岳図書交換会 本会 一〇月

下次免餐会 二月二日

来日外国登山家との交歓

研究會

日 石突会

高所登山研究会

八 展覽會

この一本展

山岳絵画展

登山施設の改善その他登山のため

の適切な事業

上高地山岳研究所開所

四月と二月

山岳遭難の予防とその対策に関する

る企画および指導

夏山診療所開設 七月～八月

（滄々岳、五色沼、書公、三吳山柱、

白馬岳、合綫小屋、尾頼、立山

日馬長 合華ノ屋 月夜
雪崩ノ。ボジクムノ開崖

雪崩シンポジウムの開催

雪が登山の練習会の開催 富士山

山岳スキー講習会の開催

自然保護活動の推進

各所での自然保護活動の推進

日米民間人環境会議への参加

海外登山の企画および海外との交

流

ドイツ山岳連盟との登山交流を行う

八月

ラトック三峰登山（青年懇談会）

五月、六月

— 243 —



会務報告

4月理事会

4月24日午後6時30分

本会ルーム

▽出席者 西堀会長、望月、折井各副会長、宮下、高遠、皆川、鈴木、大森(兼)、黒石、田村、牧野内、嵯峨野各理事、松丸、小原、近藤各評議員
委任 山本、小倉、中川、橋本、浅田各理事

▽議案

・昭和52年度事業報告承認の件

・シエラクラブ会員との登山交流

七月

・アラスカでの登山(学生部)

六月・七月

6 機関紙などの刊行

・「山岳」七三年発行

・会誌「山」第三九四・第四〇三号発行

・「山日記」昭和五十四年版編集

・「新選・覆刻・日本の山岳名著」を企画、編集

・「登山」(入門書)編集

・「ヒマラヤ研究」編集

7 国内および国外山岳団体との連絡および情報交換

・UIA総会への代表派遣

・日・ネ協会の事業に対する協力(登山)

・中国登山界との交流の促進

8 その他

・その他目的を達成するために必要な事業を行う

承認

(高遠)

・昭和52年度収支決算、財産目録承認の件

(高遠)

承認

・昭和53年度役員(監事)候補者が評議員会で推薦

(望月)

了承

・立正大学カラコルム登山隊推薦状交付願について

(立正大学OB後藤)

・昭和53年度通常総会提出議案の件

(高遠)

承認

・ネパール国王来日に関する件

(宮下)

5月16日・21日、山の絵画展、於日本橋三越「ネパール国王・王妃来日記念ヒマラヤを描く絵画展」日本山岳会主催

了承

▽報告事項

・4月21日法人関係募金先を招待してのルーム披露パーティー開催

・東海支部総会(4月22日)に副会長出席

・関西支部総会(4月12日)

・宮城支部総会(4月17日)

・早稲田大学山岳部インド・ヒマラヤ遠征隊派遣中止の連絡あり

(宮下)

ルーム日誌

(53年3月)

1日(水) 山研委員会

6日(月) 理事会

7日(火) 図書委員会

8日(水) 海外連絡委員会

10日(金) 図書委員会来客

14日(火) 会報編集委員会、婦人懇談会委員会

15日(水) 三水会

16日(木) 山岳史懇談会

23日(木) 婦人懇談会研究会

25日(土) オリエンテーション

28日(火) 自然保護委員会

29日(水) マカルー映画会

今月の来室者 四三三名

会員異動

退会者

一四八四 谷 博(53・3)

八一四一 Desmond Francis Ryan(53・3)

物故者

七三二五 深田志げこ(53・3・25)

支部長交代のお知らせ

岩手支部 佐藤敏彦(六九三五)

石川支部 増江俊三(六三三四)

福島支部 中島正夫(二七二五)

昭和五十二年六月二十日発行

102 東京都千代田区四番町五十一

サンビュウハイム四番町

発行所 日本山岳会

発行者 西堀栄三郎

編集代表 大森久雄

電話東京(29) 四四三三

振替口座東京三一四八二九番

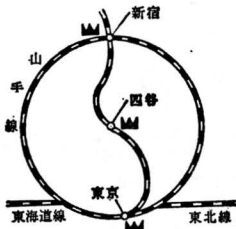
東京都港区赤坂二丁目三番六号

株式会社 技報堂

印刷所

登山・スキー用具専門店

山の店

大阪市北区梅ヶ枝町101
TEL. 06(362)5736●買いやすい
山の店●北へ来たら
山の店●フレッシュな
山の店

四谷店 東京都新宿区三栄町三番地
TEL (351) 7432-1912
八重洲口店 東京都中央区八重洲二の五
TEL (271) 1560-8575
新宿店 新宿ステーションビル四階
サービスショップ
TEL (352) 6564
日本信販加盟店



山友社 たかはこ

山とスキーの専門店

片桐

東京都文京区湯島3丁目38-9

片桐 盛之助

電話 東京(831) 1794・6680

信用と知識を売る
山の専門店

登山用具は
ぜひ
秀山荘
中央区八重洲2の1の11
☎281-8456

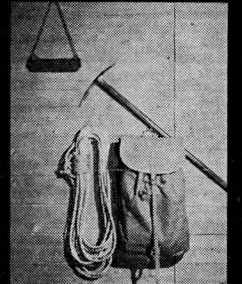
登山とスキー具

イワタ

東京都中央区日本橋通2-1
PHON: 271-7686・1718登山・スキー用具の専門店
エーデルワイスマークの

好日山荘

東京店・中央区銀座3-5-7 ☎(03) (561) 3600
スキーショップ ☎(03) (561) 0966
吉祥寺近鉄店・吉祥寺近鉄7階 ☎(0422) (21) 3331 (代)
大阪店・北区曽根崎1-2-8 ☎(06) (364) 0931 (代)
梅田店・北区曽根崎2-7-2 ☎(06) (315) 7985 (代)
大阪三越店・北浜三越新館2階 ☎(06) (203) 1331
セルシー店・千里中央セルシー1階 ☎(06) (833) 0123
福岡店・博多区須崎町1-4 ☎(092) (281) 3440



山の近刊

川崎精雄／望月達夫／山田哲郎
中西 章／横山厚夫（共著）
静かなる山
B変型判二〇頁 写真一六葉 定価一、七〇〇円
執筆者と山名
川崎精雄
前黒法師岳／大山三峰山／高柄山／節刀ヶ岳／
神座山／甲州高尾山／水ヶ森／大西山／諏訪山／
浅間隠山／鍋割山／武尊山／御神楽岳／明神
岳／枯木山／大博多山／天狗角力取山／三大明
神山
望月達夫
山伏／十枚山／御池山／道志二十六夜山／鶴ヶ
鳥屋山／笹子雁ヶ腹摺山／源次郎岳／大鳥山／
秩父御岳山／笠丸山／大高山／岩菅山／鳥甲山
／荒沢岳／額取山／西吾妻山／蓬田岳／仏具山
／鎌倉岳
山田哲郎
矢倉岳／秋山二十六夜山／高川山／御正体山／
雨ヶ岳／五郎山／男山／御座山／天丸山／根本
山／十二ヶ岳／白砂山／笠ヶ岳／貉ヶ森山／三
倉山／皇海山／七ヶ岳／窓明山／会津朝日岳
中西 章
篠井山／富士見山／甲東不老山／杏ヶ岳／高間
山／松岩山／黒檜山／高田山／未丈ヶ岳／土埋
山／日本平山／太郎助山／二岐山／家老岳／錫
ヶ岳／大木戸山／大鳥屋山／羽賀場山／雨巻山
／釈迦ヶ岳／荒海山／博士山／大戸岳／吾国山
横山厚夫
大群山／釈迦ヶ岳／達沢山／黒川鶏冠山／有間
山／蕎麦粒山／飛竜山／唐松尾山／藤尾山／十
文字山／茂来山／オドヶ山／南月山／大白森山
／袈裟丸山／男体山／台倉高山

茗溪堂

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-1 電話03-291-9442 振替東京8-24723 ●お買上げ、ご注文は最寄り書店をご利用下さい。